

SEMMOTO NEWSLETTER

2023.04.18. No. 8

CONTENTS

- ◆ 第1期生奨学生期間終了式
- ◆ 2023年度の事業計画について
- ◆ 2023年度4月奨学生レポート



第1期生奨学生期間終了式にて



公益財団法人

千本財団

Frances and Sachio Semmoto
Foundation

■第1期生奨学生期間終了式

2023年3月20日（月）に第1期生奨学生期間終了式を都内会場（学士会館）にて開催しました。奨学生期間終了式には21名の奨学生の他、千本倅生代表理事、小林業務執行理事、橋本理事、日比谷理事、藤崎評議員、川口評議員、大角評議員、千本祥子評議員、飯田評議員、事務局スタッフ2名が参加し、奨学生期間を満了し、4月から新生活が始まる第1期生を祝福しました。

奨学生期間終了式では、千本倅生代表理事より祝辞が述べられ、第1期生に対して、終了証と記念品（ボールペン、ハンドタオル）が贈呈されました。その後、第1期生3名より大学生活を振り返ったスピーチをしていただきました。スピーチの後は懇親会として、歓談の機会を設け、コーヒーとお菓子を交えて親交を温めました。



第1期生の集合写真

左からTAN ZU SHENG、VU KIM QUANG、SABRINA MEGUMI AHMAD



懇親会の様子（1）



懇親会の様子（2）

千本倅生 代表理事からの祝辞

本日は皆さん、心からおめでとうございます。6年前にこの財団を発足して、やっと卒業生が出るということに、非常に感謝しております。私自身がフルブライトの奨学生で、(理事の)橋本さんが1959年にカンザス大学に東大を出てから留学され、私は1967年、今から50年以上前にフロリダ大学でマスターとドクターを取りました。フルブライトの奨学金がなかったら、とても50年代、60年代はアメリカに行きませんでした。当時の初任給が2万数千円で、渡航費が70万円、授業料が200万円ですから、貧乏な親の子としてはアメリカに行けない状況でした。その時に救いの手を差し伸べてくれたのが、セネター・フルブライトが作ったフルブライト奨学金で、そのおかげで私も橋本さんも低開発途上国の日本から最上の国のアメリカに行けた、そういう恩恵を受けたことを我々は決して忘れない、そういうことを少しでも小さい形ながら千本奨学金ということで、アジアの皆さん方に恩返しをしたいというのが、私どもの発想の原点であります。

そういうことを皆さんに開拓していただいて、今日このように卒業生ができたことを、本当に心から有難いと思い、感謝しております。今日はお集まりいただき、本当にありがとうございました

第1期生のスピーチ

SABRINA MEGUMI AHMAD (インドネシア)

神奈川大学 理学部 数理・物理学科

インドネシア出身の神奈川大学、理学部数理・物理学科のサブリーナ・メグミ・アハマト申します。本日は私たち第1期生の終了式にお越しくださいます、ありがとうございます。久しぶりに対面する2期生、3期生、4期生、そしてはじめましての22年生の皆さまに会えてとても嬉しく思っております。千本財団から支援を受けて、4年半が経ちましたけれども、今もし支援を受けてなかったら、もし願書を出していなかったらと思うと、ちょっと怖くなることもあるので、いくら感謝してもしきれないと思います。1年生になって一人暮らしを始めてホームシックになり、いろいろな新しいことに挑戦して、とても忙しい1年でした。そして2年になって、コロナになって、私個人にとってはとても混乱した1年、空虚な1年といえる1年でした。いろいろなことが起こりすぎていると同時に、何もできない1年でした。そして3年生、4年生と、千本財団の支援もあって、何不自由なく暮らせたと思います。

卒業後の進路は大学院に進学すると最初から決めていたのですが、事情があってできなくなってしまい、つい最近起こったことなので、まだ混乱したりパニックになることもあるのですが、これから新しい道を探したいと思います。

後輩たちへのメッセージは、これから2年生になったり、3年生、4年生とはじめる活動がバラバラだと思いますが、そして思いがけないことがたくさんあると思います。何かに迷ったり、つまづいたり、不安になったりすることもあると思いますが、千本財団の人々は、国籍のつながりとか、専門分野のつながりとか、年齢のつながりとか、関係なく大学1年生から4年生、役員の人たちもいろいろな人がいると思うので頼ってほしいと思います。これからもよろしくお願ひします。



千本代表理事から奨学生に終了証の授与

第1期生のスピーチ**TAN ZU SHENG (マレーシア)****山梨大学 工学部 コンピュータ理工学科**

私は山梨大学のタン・ズー・シェンで、マレーシアから来ました。本日は終了式にご出席いただき、ありがとうございます。私は1年半日本語学校、4年間大学に通って、合計5年半が経ちました。日本に来る前、思いもしなかった日本留学ができただけでなく、無事に大学を卒業することができました。留学している5年以上の間、家族だけでなく千本財団の支援のおかげで、無事に日本留学をやりとげました。これからは社会人になって、真の意味で独り立ちすることになります。4月になったら、私はIT企業に入社し、システムエンジニアとして働くことになりました。日本留学を決意した当初の希望は、電子機器の組み込みシステムの開発に携わることでしたが、大学の授業を実際に受けてみて考えが変わりました。今は入社して3カ月間の研修が終わったら、業務系システムの開発に携わりたいことを希望しております。しかし、業務系システムだけでなく、もし機会があれば電子機器の組み込みシステムに携わって、いろいろな分野で活躍できればと考えています。

将来は母国に帰る予定ですが、今の所はいつ帰るかわからないので、日本で働けるうちはできるだけ多くの知識を身につけ、母国の発展に貢献できるようになりたいです。

千本財団から支援を受けて4年半が経ちました。私の家庭は経済的にあまり良い方ではないので、日本留学は夢のまた夢でした。ですから日本留学を決意したときは、留学期間の5年半の費用を計算して、日本留学をやり遂げるために二つの目標を設定しました。一つは国立大学に入ること、二つ目は奨学金をもらうことです。日本に来て1年が経ったところで、日本語学校の先生のサポートもあって、千本財団から支援を頂くことになりました。それも月額12万円という莫大な金額で、支援を受けてから4年半の間、とても大きな助けとなりました。そのおかげで、生活費以外に旅行や自分の欲しいもののためにお金を使うことができました。ですから、本当に何から何までありがとうございます。そして、何よりも、家族にあまり頼らずに生活ができたので、親の負担をかなり減らすことができたと考えています。

そして後輩たちへのメッセージですが、これからは就職活動と大学院進学への準備が本格的になって忙しくなっていくと思います。すでに就職活動が終了している人もいると思いますが、これから始めた場合は頑張ってください。そして大学院進学を希望している方は、今後のご健闘を祈っております。しかし身体的に、精神的に疲れている場合は作業の効率下がると思うので、疲れをとるための定期的な休息を忘れないでほしいです。例えば、せっかく日本に来たわけですから、日本しかできない日本国内の旅行をしてみたいはいかがでしょうか。日本にはたくさん美しいところがあると思うので、ぜひ色々なところに行ってみてください。旅行が好きではない方は、新しい趣味を見つけてはいかがでしょうか。社会人になったらお金より時間を作る方が難しいと思うので、皆さんまだ学生のうちに自分のやりたいことをして欲しいと思います。残りの学生生活を悔いのないようお過ごしください。

第1期生のスピーチ**VU KIM QUANG (ベトナム)****東京理科大学 工学部 機械工学科**

私は東京理科大学のヴ・キム・クワンと申します。本日は私たちの終了式にご来場いただき、ありがとうございます。私は4年間、千本財団の奨学金を受けて、今振り返って、そのおかげで様々なことができました。1年生の時は、バイトせず勉強と課外活動に集中することができ、仲が良い友達もでき、そのおかげでいろいろな情報を頂くことができました。2年生に上がると、それこそコロナの状況で大変で、そのときはバイトもできず、奨学金がもらえなかったら生活に心配がりましたが、奨学金のおかげで勉強に集中することができました。3年生も同じで、無事4年生に進級することができました。4年生になってコロナも落ち着き、奨学金を頂いたおかげで空いた時間ができたので、課外活動ではなくボランティア活動に参加することもできました。

事情がありまして、4月からはまだ卒業せず、1年間大学で過ごし、今やっている研究を続けたいと考えています。自分の4年間を振り返って、後輩の皆さんにお伝えしたいことは、自分が勉強している間、大変な目にあつた場合、自分でどうにかしようという考えが強かったので、友達や先生に助けを求めず、自分一人でやろうとして結果として時間を使いすぎて、結果良くなかったと考えております。それなので自分で考えてどうしようもない時は、先生や友達に救いを求めてください。以上です。

■2023年度の事業計画について

2023年度は下記の計画の通り事業を実施します。

1. 継続奨学生（第2期生～第4期生）への奨学金給付事業

理事会の審議を経て継続が認定された奨学生に対し、下記の通り奨学金を給付する。

- (1) 給付期間：1年間（2023年4月～2024年3月）
- (2) ①給付額（第2期生～第3期生）：12万円（月額）
②給付額（第4期生）：8万円（月額）
- (3) 給付予定人数：13名（第2期生：4名、第3期生：5名、第4期生：4名）
- (4) 給付総額：1680万円

2. 新型コロナウイルス対策 特別給付奨学金事業

昨年度理事会にて認定された奨学生に対し、下記の通り奨学金を給付する。

- (1) 給付期間：6カ月間（2023年4月～2023年9月）
- (2) 給付額：8万円（月額）
- (3) 給付予定人数：7名
- (4) 給付総額：336万円

3. 第6期生の募集及び選考、奨学金の給付

奨学金制度規程に基づき、本年度は下記の通り対象の日本語学校より第6期生を募集、選考し奨学金を給付する。

- (1) 採用定員：7名
- (2) 給付内容：①期間：6カ月間（2023年10月～2024年3月）
②給付額：5万円（月額）*11月に10月分を含め2カ月分給付
- (3) 応募締切：2023年8月31日（木）*消印有効
- (4) 選考期間：①書類選考：2023年9月15日（金）結果通知
②面接選考：2023年10月1日（日）*理事会承認後10月17日（火）結果通知

4. 奨学生の交流会および同窓会の実施

奨学生同士と財団の交流を促進することを目的に、下記の交流会を実施する。

- ①オンライン交流会
 - ・実施時期：2023年4月～2024年2月 2～3カ月に1回開催予定
 - ・参加対象：奨学生20名、事務局職員 *参加は任意とする
- ②リーダーシップ交流会：
 - ・実施時期：2023年8月頃
 - ・参加対象：第2期生～第4期生13名
 - ・講師：藤崎一郎評議員
- ③同窓会
 - ・実施時期：2023年9月～12月、昼食時間帯に開催
 - ・参加対象：第1期生3名、財団役員、事務局職員
- ④新規奨学生認定授与式
 - ・実施時期および場所：2023年11月、株式会社RENOVA Board Room
 - ・参加対象：新規奨学生7名、財団役員、事務局職員
- ⑤第2期生修了式および第6期生大学合格祝賀会
 - ・実施時期および場所：2024年3月、学士会館
 - ・参加対象：全奨学生20名、財団役員、事務局職員
- ⑥富津ソーラー見学会
 - ・実施時期および場所：2024年3月（第2期生修了式および第6期生大学合格祝賀会同日）
 - ・参加対象：全奨学生20名、事務局職員2名

■2023年度4月奨学生レポート

2023年2月に発刊された千本代表理事著書の『千に一つの奇跡をつかめ！』の読書感想文を奨学生の皆様に書いて頂きました。

CHEAH JIA YI (マレーシア)

東京農業大学 生命科学部 分子生命化学科 4年

千本代表理事の著書『千に一つの奇跡をつかめ！』を読んで、たくさんの貴重なアドバイスをいただきました。千本代表理事の著書で‘新しいことを恐れず挑戦していく精神がとても大事だ’ということに自分も強く感じます。母国から離れて文化や言葉の違う国に留学することを決めたのもそうでした。これによって新しい人たちと出会えましたし、視野を広げることもできました。

私はよく今している決定や行動が本当に一番いいのか迷う人です。千本代表理事の著書に書いてあった「迷ったら進む」の言葉にとても心が動かされました。自分の行動は何につながるかはっきり知らなくても、困難があっても自分の成長につながることをより自信を持つことができるようになった感じがします。他人の言葉で自分に大きく響いて励まされたことが何回も経験したことがあります。自分の言葉に他人が影響を受けているかどうかは今までよく考えたことないと感じるようになりました。千本代表理事が述べていた言葉の大事さをきっかけに今後、自分の言葉により心をかけようと感じました。

私も色々な人たちの助けを受けたことがあって、それにはいつも感謝な気持ちを抱えています。それが天の意思であろうか、私は今後も他人を助けるような人間をなれるためにより自分の日々の行いに心がけ、自分を磨いていきたいと思えます。

LIM AN QI (マレーシア)

京都精華大学 マンガ学部 アニメーション学科 4年

『千に一つの奇跡をつかめ』を楽しく拝見させていただきました。一つの野望から第二電電の設立までの全過程がこの一冊の本にまとめられていて、その中で千本さんが自ら機会をつかむエピソードや予測しづらくて不安定な出来事を通して、数多くの気づきがありました。

ベンチャーを起業するのに勇気は不可欠で、千本さんは勇気の塊に見えました。昔の自分も勇敢で、何でもやってみたくて、色々挑戦してきましたが、知らないうちに保守的になったのです。しかし、千本さんは直面した困難を恐れず、全てを乗り越えて第二電電を設立し、しかも、とった行動がかなりポルドで、その行動力に憧れを感じました。

ある人との出会い、ある経験を得る機会、すべてが奇跡であり、全てが偶然でもありますが、最初の第一歩を踏み出さない限り、奇跡が目の前にあっても見つけれられないのでしょうか。コロナで引きこもり生活に慣れたから、出かけなくても作業、アルバイトができれば問題がないという言い訳で外出を控えていた自分は愚か者です。この本を読ませていただいた後、私も「より積極的にならなくちゃ」と、決めました。この本からいただいた勇気を持って就職も、今後の制作も、大飛躍のチャンスを待つのではなく、自ら探しに行き、ファーストペンギンになりたいと思えます！

MELLISA ARDELIA (インドネシア)
東京理科大学 理学部第一部 化学科 4年

この本では千本さんという人物そのものが描かれているように思われました。千本さんの価値観、何を考えて行動するかが正直で、分かりやすく書いてあり、繰り返されていましたので、本当に読者に話しかけているような著作に感じられました。内容自体も分かりやすく、後は読者がそのアドバイスをどのように実行していくかどうかだけです

私自身としては、特に第3章「最初に飛び込むペンギンとなれ」を読んでいた時、内容が非常に自分の中に響いていました。私もいつの間にか、気づいたら失敗を必要以上に恐れる人間になりました。以前の私なら挑戦していたのに、今の私は「現実的」にもものを見過ぎて、可能性はあるもののそこに成功するチャンスが小さいと感じたらやってもみない、保守的な人間になりました。

ですから、今度は、失敗を恐れず、失敗してもその失敗から学んで、やり方を変えればいい、失敗することに恥などない、失敗することは今の私が思っているほど恥ずかしいことではないと信じて行動するように心がけます。周囲に惑わされて、失敗を恐れ、恥ずかしく思う人より、失敗することを恥ずかしく思わないようにする人間になりたいのです。

NGUYEN BAO HUNG (ベトナム)
同志社大学 商学部 商学科 4年

千本代表理事の著書を読み、成功の話はもちろん、失敗談からも深く感銘を受けました。本書からは「人との出会いを大切に、感謝の気持ちを忘れない」、「失敗より挑戦」など様々な学びが得られました。その中で、一番印象に残ったのは「利他の心で生きる」ことです。

コロナで何事も上手くいかなかった当初の私は、自分のことさえ考える余裕がないのに、他人のために動くことができるだろうかと思っていました。しかし、意外な出来事が起き、私は高い時給のバイトから、今働いている最低賃金のコンビニに転職すると決断しました。コロナ禍で安定な生活から離れるという決断に至るまでは、様々な不安を抱えました。

新しい仕事を始めた私は、「どうせ時給が低から、金じゃなく、新しいやりがいを探そう」と考えました。その結果、「お客様を喜ばせる」ことにやりがいが見つかりました。当然のことに聞こえるかもしれませんが、しかし、私は、仕事だからきちんとしないとお金がもらえないのではなく、お客様の笑顔が見たいから頑張りたいという考えを持っています。つまり、自分だけでなく、他人のためにも多く考えながら働いています。そうすると、上司に認められ、店の責任者になりました。さらに、本部の上長として勤めていらっしゃるオーナーは、本部に就職したかったら紹介してあげると私に声をかけてくださいました。

千本代表理事の話と比べると、大したことではないと思いますが、しかし、この経験を通じて、利他の心で生きればチャンスが訪れるということがわかり、私の考えが大きく変わりました。代表理事の著書を読んで再び実感しました。今振り返ると、この転職は私にとって「千に一つの奇跡」ともいえます。これからも、「利他の心」を忘れずに生きていきます。

現代社会では、奇跡なんて存在しないと考える人が多いかもしれませんが、私は千本代表理事と同じ考えを持っております。奇跡や運命は神様が与えてくれたものだ信じ、感謝の気持ちを忘れてはいけなと思います。しかし、何もせずに待つのではなく、奇跡が訪れるときにちゃんとつかめるよう、準備として勉強やバイトを日々頑張っています。

CHIN TECK CHING (マレーシア)**茨城大学 工学部 物質科学工学科 3年**

私は将来、自分の会社を作りたいと思っているので、千本代表理事の著書『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んだ後、とても啓発され、インスピレーションを受けました。自分自身のあり方や目標設定について再度考えるきっかけを得ることができました。

まず、やはりゼロからイチを生み出す力を身につけるためには、失敗を恐れず挑戦し、何度も試行錯誤を繰り返すことが必要だと思います。そして、自分の考えをより良くするために、周囲と積極的にコミュニケーションをとることも重要です。

また、苦難を乗り越えるために必要なのは挫折や苦難に遭遇したときに諦めない心を持つことと長期的な視点を持って目標に向かって努力し続けることです。現実の困難にとらわれず、将来の成功に向けた計画を立てて、努力することがわかりました。

さらに、言葉の大切さを感じました。言葉は私たちの思考や行動に大きな影響を与える一方で、他人に対しても大きな影響を与えます。良い言葉をかけることが重要であり、自己肯定感を高め、モチベーションを引き出すことができることを理解しました。

最後に、利他の心を持つことが重要だと思います。自分自身の利益だけでなく、周囲の人々の利益を考えたビジネスや人生の選択を行うことで、人々からの信頼や支持を得られ、自己実現や成功につながるからです。

千本代表理事の著書『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んで、自分が予想している未来が少しでも見える感じがします。御本を読ませていただき、誠にありがとうございました。

HA THI TRA MY (ベトナム)**東洋大学 経済学部 国際経済学科 3年**

『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んで、千本代表理事の立派な経歴をよく知り、心から尊敬しています。どの文章も印象に強く残っていて、読めば読むほど興味深く感じました。DDI創業時はNTTの社員の大反対だけでなく、天候不順や一部の住民による不満などの苦労がたくさんありました。それに、イーアクセスを作る時もADSLサービスに関する「事件」に遭って、眠れないほど落ち込んだこともあるそうですが、全て乗り越え、困難をチャンスだと思った千本代表理事は言葉では言い表せないほど素晴らしかったです。この本を通じて、いい言葉の大切さが学べて、これから何があっても私はポジティブな言葉を使い、前向きに進もうと思うようになりました。また、「迷ったら進む」という文章を読んだ後、千本代表理事が仰ったことに説得力があると強く思います。私は今まで何回も迷ったことがありますが、恐れて行動を起こさないと結局後悔しました。今それを振り返ると、私の人生に訪れたチャンスがたくさんあったはずなのに、自分でつかめませんでした。千本代表理事のアドバイスをいただき、今後は色々挑戦していきたいです。さらに、最後の文章に書いてある「一粒の麦が生きたまま身を結べば、それは一粒のままだが、死んで他に落ちれば、その死が犠牲となって、たくさんの実をむすぶだろう。」という言葉は本当に感銘を受けました。

読み終えて、千本代表理事の行動力、チャレンジ精神、粘り強さに憧れています。この本で様々なことが学べて、視野が広がりました。またこのような素敵な本を読ませていただきたいと思っています。

LEON ADITYO HARTANTO (インドネシア)

明治大学 理工学部 応用化学科 3年

『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んで、千本さんの経験を詳しく知ることができた。幸運に恵まれることは必要だと言えるかもしれないが、千本さんは誰よりも自分の夢に向かって努力する人物だと思っている。この本を読んで、本当に感動していた。これからは本の中から私にとって重要だと思うことや要点などを述べようと思っている。プロローグで「飛躍」というキーワードを中心に書かれている。誰にでもその「飛躍」は訪れるが、それを捕まえるためにいくつかの大切なことが必要である。まずは勇気を出して、プライドを捨て、チャンスをとったり質問をしたりすることが重要である。つまり、何からでも学ぼうとする「謙虚な貪欲さ」である。さらに、何の仕事でも人間性を高める必要があり、「心」を磨くことは最も重要だと思う。その方法の一つは感謝をすることだと述べている。

第1章では日本とアメリカの考え方の違いを中心に書かれている章となる。一番印象的なフレーズは「チャレンジこそ善、安定や現状維持は悪である。」である。この考え方は異なることに気づいているが、当たり前なこととして認識してしまった。確かに、自分は心の底では安定さを求めている人間であることは間違いないが、新しいものを生み出すためにはチャレンジすることが最も大事だと思っている。「安定性→依存性→犬みたいな生活」に恐怖があり、これからの進路や人生にも考慮して、自分なりの道を作りたいと思っている。そのためには、「先を見る力」と「国際的な考え方」を身に付けたい。

第2章、この章では「成功」というキーワードがある。すべての成功の99%は苦難、困難、危機、逆風、挫折という「負」の要素である。つまり、泥臭い精神の力が大事。物事の判断は「損得」ではなく「善悪」にすること。そうすると困難を乗り越えられるだろう。さらに、言葉の大切さ、言葉に人や現実を変える力がある。Mother Theresaの言葉のように自分の思考、言葉はそれぞれの運命につながっている。

第3章では「飛躍」的なリープを得るためには最初の飛び込むペンギンにならなければならない。未知の世界を経験することはquantum leapの条件の一つである。よって、挑戦→成長である。可能性があれば行動をとるべき。いくら頭であれこれ思い描いてみても、行動を起こさない限り、チャンスはつかめず、実現の可能性がゼロのままである。以上の言葉に強い印象を受けた。ベンチャーを作るのに必要なことを述べられ、すごく面白い章だった。

第4章は「人生」の言葉が大事になる。お金に縛られるのではなく、お金を道具として考えるべきということ学べた。「稼げるときは稼げ、しかるべき時は社会へ還元せよ」と「お金は後からついてきた副産物のようなものである」に衝撃を受けた。これからは人間のために頑張りたいと思っている。

ALFRED NGU YOK FEI (マレーシア)

法政大学 生命科学部 応用植物科学科 3年

千本代表理事のこの著書を読み終えて、全体的な感想としてはかなり内容が濃く、ショックを与えるエピソード満載の心惹かれる本です。多くの新鮮な知識や教訓を学べると同時に、色々考えさせられる内容です。

この本で気になったエピソードは多くありますが、まずはライバル企業NTTの総裁、真藤恒氏に初めて会ってライバル会社を作り上げることを伝えるエピソードです。このエピソードを読んで、なぜわざわざ上司に競争する目標をその上司に言うのか、この行動のメリットが見えず不思議だと思いました。しかし、真藤さんは寛大な心の持ち主で、千本さんの競争会社の目標に黙認を与えて、さらに千本さんはその目標への信念を強めて踏み切れました。この結果を知った私はショックを受け、やはり健全な競争関係を作るために、ライバルとのコミュニケーションは必要なことであると学びました。

また、第2章に語られているDDIの設立に立ち向かった色々なチャレンジエピソードを読み、ベンチャー企業の成功は苦難に屈しない強靱な心があるためにできることだと感心しました。そして、困難に晒されているベンチャーの心を支えることは「公益」を優先する利他的思考である話にも私は強く納得しました。なぜなら、DDIの設立当時は大変不利な環境に置かれているのにも関わらず、「国民がより安い電話料金を契約できるようにする」、「通信業界の健全な競争環境を整える」など利他的な目標を貫いたおかげで、千本さんや他の役員たちがたくさん苦難を乗り越えて成功するまでやり続けたと私は理解できたからです。

他にもたくさん気になったエピソードがあり、話しきれないです。この本を読んで千本さんの生き方を知り、ファーストペンギンなど新鮮な価値観に出会ってうれしいです。

MAHESA PAMUNGKAS SUGIHARTO (インドネシア)**明治大学 経営学部 経営学科 3年**

『千に一つの奇跡をつかめ!』の感想です。一言で言いますと、素晴らしい本だと思います。経営学部の私にとっては、経営面では勉強になりました。そのみならず、人生面でもかなり勉強になりました。千本さんの経験からこんなに沢山学べるなんて光栄です。この本を読んで目についていた、三つのことがあります。

まずは、人との出会いの大切さです。私が今まで会ってきた人は何百人もいるだろうと思い、それぞれの出会いには意味があると考えています。もちろん、出会いがあれば別れもあるのですが、その出会いから様々な事を勉強でき、人として更なる進化に至ることができました。この本を読んで、これらに気づいて、やはり人と出会う事は大切だと改めて気付かされました。まさに、神様が計画されているかのように、人と出会う事は素敵な事です。

次に、未知に触れることです。持論ですが、人間は変化と未知を恐れている傾向があると思います。従って、仕事においても生活においても安定を追求してしまうのです。ですが、この本では、安定よりベンチャーの心の方が大切だと述べられました。それに共感しました。未知に触れて、自分の快適ゾーンから出てから、人間は更に進化すると考えています。私も筋トレは初めは未知だったのですが、その未知に触れたら、今は東京都の大会に出ている選手の方と繋がれたし、自分の身体が変化しました。確かに、未知の怖さで中々一歩を踏めない人がいますが、その人に対して、私が背中を押してあげて一歩を踏ませてあげられたらいいなと思います。

最後はやはり、利他の心です。これは個人的に最も響きました。私は昔からずっと、誰かのために強くなれとか誰かのために勉強しろとか、必ず「誰かのため」という言葉が入りました。昔はなんで利他的にならなきゃいけないのかと疑っていましたが、だんだんこの歳になってその意味が分かってきました。この本を読むと、利他の心を持つ大切に改めて気づかされました。この本でかなり面白いなと思っていたのは、利他を優先すればお金は後でついてくるという事です。まだ、誰かのために仕事したり、誰かのために起業したりした事はないけれど、今後は仕事があれば利他の心を忘れずに試みたいと思います。

全体的に勉強になった本でした。そのほかにも、「迷ったら進む」という言葉にも心がざさりしました。海外では「You miss 100% of the shots that you don't take. (打たないシュートは100%外れる)」ということわざがあります。まさにチャンスが訪れる時に、迷いに迷ってチャンスを掴まないよりは捕まった方が良いという意味です。この本については、まだ沢山話せることがあるくらい、沢山勉強になった本でした。

LAI QING LONG (マレーシア)**東洋大学 国際学部 国際地域学科 2年**

千本代表理事の著書『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んだ後、私の人生への考えが大きく変わりました。千本さんは著書でチャンスをつかみ取る重要性を説明しました。人が生きていくうちにきっとチャンスが訪れます。そして、その際には前へ一歩踏み出す勇気が大事になっています。私はこの本で特に「失敗しないより挑戦するのが大事」という言葉が印象的です。多くの人は失敗を恥だと考え、挑戦することを恐れています。しかし、もし失敗を恐れて挑戦することを諦めると、人は一生チャンスを掴みとれず、このまま余生を過ごしていくのでしょうか。また、失敗は成功のもとでもあるし、たとえ失敗したとしてもきっとそこから得られるものがあります。千本さんはきっと読者たちにこのことを伝えたかったのです。ですから、私は今後、もし自分の周りにチャンスが訪れたら、その機会を逃さずに行動することに心掛けます。また、千本さんが毎日寝る前に自分と向き合う時間を取るのとはとてもいい習慣だと思います。毎日の出来事を振り返ると、人はきっと自分の過ちやもらった恩を意識し、より成長していくのでしょうか。ですから、私もこれからより良い人間になるため、毎日の出来事をできるだけ振り返りたいです。以上が私が千本代表理事の著書を読んだ後の感想でした。

NATHANAEL IAN GUNADI (インドネシア)
青山学院大学 理工学部 情報テクノロジー学科 2年

GPT-4が公開されたことにより、私は正直就職できるかどうか心配になってきました。同い年の多くの学生よりも、私はプログラミングができると自信があります。そこで、フリーランスの仕事を見つけることができるウェブサイト、私ができそうな仕事を探してみましたが、調べた結果、「これをchatgptに打ち込めば答えが出るのではないか」と思いました。そのため、自分で先にコードを作ってみたのですが、chatgptに出力された方がはるかにきれいで効果的でした。何度かこのようなことが起こったため、あと数年経ったら新卒の学生たちができることがなくなるのではないかと心配するようになりました。

しかし、『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んだ後、これはチャンスとして扱ったほうが良いと気づきました。今のchatgptでは、複雑なコードを求めるときにかなり具体的な指示を与えないと求められていることが出ません。また、声で指示を与えることがまだできず、できるようになるとしても日本語やインドネシア語、特になまりのある地域別で使われている言葉を理解できるようになるのはまだかなり先の話だと思います。また、政治などに振り回されないようにセキュリティを改善したり、ウェブサイトなどにより効果的に組み込めるような仕組みを考えたり、まだまだできる仕事があると感じるようになりました。

二年の時からAI専門の先生の研究に入ってみようと思いはじめました。そして今まで作った人間関係、これから作る人間関係を大事にしたいと思います。千本さんは様々な素晴らしい人物と出会って、目の前にあるチャンスをつかみました。私が本当にあこがれたのは、この目の前にあるチャンスを掴む勇気でした。私もチャンスが目の前に現れたらちゃんと掴むようにしたいと思います。

ANDREW LIM KAR JUN (マレーシア)
山形大学 工学部 情報・エレクトロニクス学科 2年

『千に一つの奇跡をつかめ!』を読み終わり、千本代表理事の過去の出来事には本当に感心します。大手企業の電電公社から仕事を辞めることだけではなく、その上にライバル企業の設立をしました。どれもこれも自分にとって大胆すぎた行動で、インパクトを受けました。

また、この本には千本代表理事自身のビジネスにおける経験や失敗が書かれていますから、3年後社会人になる自分にとっては非常に貴重な経験でした。千本代表理事の失敗から学ぶことで、自身の起業において同じ落とし穴を回避するのに役立つと思います。

この本の中で印象に残ったのは「つねに利他の心を持つ」と「失敗よりも挑戦することが大事」です。なぜなら、自分はこの二つのどちらにも乏しいと気づいたからです。何をやるにしても、自分のことを第一にするのが一般的です。自分のためではなく他人のために、みんなのために何かをやるのはめったにありません。これからは自分のことばかりを考えるのではなく、千本代表理事と稲盛さんのような利他の心を持つ人になりたいです。

さらに、今振り返ると、日本に来て以来、新しい趣味を見つけることとテスト以外の勉強は少なかったです。大学の授業もできる限り苦手な哲学に関する講義を履修しないことにしました。自分はきっと新しい領域への挑戦が怖くて、失敗を恐れています。しかし、このままだと、つまらなくて変化のない人生になるでしょう。そのような未来にならないために、これから少しずつ自分の内向きな志向を変えていきたいと思っています。

この本は今後の人生に迷うときに、必ず参考になってくれると思います。読んで本当によかったです。

LEE ZEE YEEN (マレーシア)

長崎大学 多文化社会学部 多文化社会学科 2年

千本代表理事の著書『千に一つの奇跡をつかめ!』を読んだ後、とても印象残っているのは、困難を乗り越えられた理由の中で、「不屈の精神」と「戦術」はわかるけれど、「利他」も理由の一つに入るとは思わなかった。自分はビジネスのことはあまりわからないので、今まで「ビジネスマン」にとってお金をたくさん稼ぐために一番考えているのは「利己」ではないか、「利他」と全然繋がってないと思っていた。しかし、この本を読んでもっと深く考えると、確かにビジネスの成功は価値の創造、そして人々のための価値の創造だ。世の中一番お金持っている人々は、人間に重要な価値を創造してくれた人ではないか。

「人を立てれば自分もたつ」、この言葉を今からずっと覚えておくようにする。自分は「安定」が自分の人生にとって大切なことだと思う。もし自分が大手企業でいい給料をもらっているならば、千本代表のように退職することは自分にとって難しいことかなと思う。いっぱい勇気が必要だ。千本代表の勇気と先までの見通しがあるのがとても感心している。私も、一回しかない人生の中で、千本代表のように、努力して、機会を掴んで、成功したいと思う。

